

9.7 施設・設備

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備

- (必須要素) 大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- (必須要素) 大学院専用の施設・設備の整備状況
- (選択要素) 大学院学生用実習室等の整備状況

【評価項目 13-0-2】 先端的な設備・装置

- (選択要素) 先端的な教育研究や基礎的研究への装備面の整備の適切性
- (選択要素) 先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性

【評価項目 13-0-3】 独立研究科の施設・設備等

- (選択要素) 独立研究科における当該研究科専用の施設等の整備の適切性

【評価項目 13-0-4】 夜間大学院などの施設・設備等

- (選択要素) 夜間に教育研究指導を行う大学院における施設・設備の利用やサービス提供についての配慮の適切性

【評価項目 13-0-5】 本校以外に拠点を持つ大学院の施設・設備等

- (選択要素) 本校以外の場所にも拠点を置き、教育研究指導を行う大学院における施設・設備の整備の適切性

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制

- (必須要素) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- (必須要素) 実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況

<2003年度に設定した目標>

1. 教員共同研究室、大学院学生自習室を整備する。
2. 大学院学生専用の教室、施設設備を整備する。
3. 大阪梅田キャンパスでの授業環境を整備する。
4. 施設設備の管理体制を整備する。

(現状の説明)

1. 2004年4月に竣工した大学院1号館に全学の大学院学生専用の共同研究室が設置され、個人ブース、PCが配備されている。また本研究科の独自の大学院学生自習室には専用PCが5台あり、プリンター等制限なく自由に使用できる環境にある。その他研究科教員専用の共同研究室を持ち、PCや言語科学、言語教育学関連の研究機器その他のAV機器を設置している。また大学院学生自習室には、辞書等の学習用参考図書も配架している。
2. 専用教室としては、大学院1号館に優先的に使用可能な教室が2室、第4別館に2室設けられている。教室数は充足しているので、大学院の授業使用のほかに学部授業でも活用されている。
3. 夜間授業で使用している大阪梅田キャンパスでは、2005年4月の経営戦略研究科の開設に併せて教室が増加し、施設設備が整備され、自由に使用できるラウンジも設置され、大学院学生と教員の相談スペースもできたが、授業のための教室は逆に確保が難しくなっている。
4. 教員共同研究室および大学院学生自習室の管理は、言語コミュニケーション文化研究科の事務局である言語教育研究センター事務室が行っている。機器の故障等があれば、

使用者から言語教育研究センターに連絡し、状況を確認した後に関係業者に連絡をとる体制としている。

(点検・評価の結果)

1. 大学院1号館にある大学院専用共同研究室は、土曜日の午後や日曜日也可以使用できる環境であるため、研究科独自の自習室については、PCのOSやアプリケーションのバージョンアップについては随時対応する必要があるが、スペースの拡大やパソコンの増設などの対応は必要ないと考えられる。独自の自習室をもっていない学内他研究科に比較して、自習室のスペースは恵まれている。教員専用の共同研究室については、機器設置後4年を経過し、機器の老朽化が進むため、近い将来に機器の見直しを行う。
2. 大阪梅田キャンパスは、教室の確保ができないため、別フロアの貸会議室で授業を行っている。貸会議室での授業では、使用時間を越えて授業することができないため、教員や学生にとって不満となっている。本研究科が優先的に使用できる教室が必要である。

(改善の具体的方策)

1. 本研究科が学内研究設備制度を活用し、教員共同研究室の研究用機器のタイムリーな更新ができるよう努める。また、各教員へのアンケート調査を行い、研究科内でのプライオリティを明確にして順次申請し、整備する。
2. 大阪梅田キャンパスの教室使用について、本研究科が優先的に使用できる教室を確保できるよう努める。